

2025年度 人間環境学コロキウム 報告書

テーマ「昭和 100 年から考える持続可能性」

日時：2025年7月23日（水曜日）14:50~18:10（4限・5限）

場所：九州大学伊都キャンパス イーストゾーン 大講義室Ⅱ

1) 実施概要について

1-1) 2025年度人間環境学コロキウムの趣旨

人間環境学コロキウムは、建築学、社会学、文化人類学、心理学、教育学など複数の領域で構成される人間環境学府・研究院内外の相互交流を通じて、「人間環境学」という視点に立った研究の進展とそれを支える人材の育成を目的としている。2025年度人間環境学コロキウムでは、「昭和 100 年から考える持続可能性」をテーマに、昭和 100 年という節目において、人間環境学府内外に関わらず「人間環境学」に属する専門分野を専攻する我々が、過去を振り返り、現在を捉え直し、未来を如何に想像するのかを相互交流を通して思索する学びの場を形成することを目指す。

1926年に昭和元年が幕を開けた。1926年から2025年に至る今日まで、世界的な情勢は大きな波を打ちながら今なお大きく変動し続けている。この100年を日本だけに着目しても、第二次世界大戦での敗戦から高度経済成長にかけての復興と発展、その後、バブル経済崩壊による不景気、数々の自然災害そして、パンデミックも相まって失われた30年といわれる現代を振り返っても激動の100年であった。しかし、失われた30年とはいえども、今日の世界の工業産業・技術産業への貢献や日本独立法人国際機構（JICA）による国際協力への貢献など、先人たちによって引き継がれてきたものがある。

こうした努力の裏には、萌芽的な挑戦を行う中で成功と失敗を繰り返し、少しずつ前進・発展してきたことが推察される。成功と失敗の蓄積が今の我々の生活の中で、目視できるかそうでないかに関わらず、活かされているということは想像に難くない。しかしながら、これらは普段、無意識的に行われることが多くある。改めて意識的に成功と失敗の蓄積を振り返ることは、それぞれの専門分野における先行研究を紐解くことにも通ずるのであろう。

本コロキウム委員らは昨年の「シリーズ人間環境学」を通して「持続可能性」について考えてきた。持続可能性という未来の事象を考える中で、改めて過去の事象を振り返りことの重要性を捉え直し、現在だけでなく過去の中にも持続可能性を考えるための鍵があると考えている。ただし、あくまでその鍵はその時代背景に合う鍵であり、現代という時代に合わせた鍵を創造しなければならない。そのためには、その時代背景を知ること、そして、その中でいかに鍵が作られてきたのかを問い直すことが必要となる。

本年度のコロキウムでは、昭和 100 年と題して学問的な視点に限らず、社会的、文化的

など多様な視点から、いかに 100 年間で意識的に振り返るのかを学ぶ機会を提供するとともに、各専門分野の知見に立ち、相互交流を通じて、過去の 100 年とこれからの持続可能性を往還し、人間環境学が成しうる持続可能性への貢献を思索することを目指す。

1-2.) 当日のスケジュール

時間	内容
14:50~	第一部 人間環境学コロキウム講義 趣旨説明 講演 1 : 山田貴宏先生 「関係性をデザインする住環境づくり ～生態系との相互作用で柔らかくつくる～」 講演 2 : 江川史郎先生 「形態の研究の歴史とモノの考え方の歴史」 講演 3 : 水谷智之先生 「人口減少化における持続可能な地域のあり方への第一歩」
16:40~	第二部 座談会 座談会 1 (30分) 6名×3グループ 座談会 2 (30分) 6名×3グループ エンディング (写真撮影)

1-3.) 参加対象者の範囲と当日の参加者

- ・九州大学及び近隣大学の学生
- ・九州大学の教職員

昨年度の募集対象を参考に、今年度も人間環境学府だけでなく、他学府、並びに近隣大学へポスターを設置させていただき、広報を実施した。

当日の参加者

第一部 40名、第二部 18名

1-4.) 広報活動の実施概要

主な広報活動はポスターを用いた掲示物である。昨年度と同様に各学府の掲示板上、並びに、福岡大学様にご協力いただき、ポスターを掲示した。また、ポスター以外に 2025 年度「人

間環境学」の講義時間を利用させていただき、受講生に対して広報活動を実施した。

ポスター設置場所	枚数
農学部掲示板	4
工学部掲示板	4
理学部掲示板	1
理系図書館	1
センター1号館掲示板	1
センター食堂	1
センター地下食堂掲示板	1
人間環境学府掲示板	1
イースト1号館	6
イースト2号館	2
大講義室 I	1
中央図書館	1
大橋キャンパス	2
病院キャンパス	2
福岡大学	2
合計印刷枚数	30部

2. 当日の講話内容に関して

講演 1

山田 貴宏 先生

所属：株式会社 ビオフォルム環境デザイン室 代表取締役

テーマ：関係性をデザインする住環境づくり～生態系との相互作用で柔らかくつくる～

—概要—

山田先生より、生態系（自然の摂理）に適応した建築設計に関する講話をいただいた。山田先生の講話は、先生の研究・建築設計の中心に位置する、オーストラリアの生態学者であるビル・モリソンらが提唱したパーマカルチャーの考え方に基づき、持続可能性とこれからの建築設計を内容としたものである。パーマカルチャーとは生態系を手本にした関係性のデザインであり、世界中の土地に暮らす人々の伝統的な暮らしの知恵をベースに編集したデザインの手法や考え方である。様々な国や地域の建造物、また、思想の風土性を題材として、それぞれの土地におけるパーマカルチャーを土台とした建築物を取り上げ、現代建築に関する課題と今後についてお話しいただいた。

講演 2

江川 史朗 先生

所属：九州大学 農学研究員 資源生物科学部門 助教

テーマ：形態の研究の歴史とモノの考え方の歴史

—概要—

江川先生より、昭和 0 年を基準としたご専門の形態学の科学史の概論に基づき、ヒトの科学観や社会観の変容に関する講話をいただいた。ご自身の専門である形態学、近接領域である生理学などの議論から、研究分野が違くと微妙に話が噛み合わないという現象から、「モノの考え方」を視点に科学史の概論を説明いただいた。話の中心は人類学者であるレヴィ=ストロースの進化の過程では共通の型が変形しているのではないかという考え方を中心としたものである。近年はある共通の型に見られる進化だけでなく、卵から成体になる過程のサイクルが共通し、サイクルの途中のプロセスだけが進化していると考えられている。このことはヒトの科学観や社会観の変容にも共通性が見られるのではないか、また、サイクルの中で好ましいゴール(サイクル)を見出していくかという視点から持続可能性についてお話しいただいた。

講演 3

水谷 智之 先生

所属：地域魅力化プラットフォーム 理事・会長

株式会社 デジタルホールディングス 社外取締役

テーマ：人口減少化における持続可能な地域のあり方への第一歩

—概要—

水谷先生より、地方の過疎地域を高校の魅力化を通じた持続可能な地域づくりに関する講話をいただいた。今回の講話のキーワードの一つが地域みらい留学と呼ばれる島留学のプロジェクトである。このプロジェクトは意志のある若者を地域で育む国内高校留学プロジェクトであり、地域全体が「学校」、住民が「教師」、そして、地域課題や資源が絶好の「教材」と捉えることで、地域に密着した探究学習を中心とした学校運営によって行われる高校の魅力化である。この魅力化により、学校で学んだ生徒の一部は地域に残り、また、こうした取り組みに賛同し地域へ移住をする。このような関係人口を増やし、地域の活性化を促すことが、いかに地域の持続可能性につながるのかについてお話しいただいた。

3. 座談会の様子に関して

第二部では座談会を実施し、30分のフリートークを2回実施した。座談会では講師の

先生から講話の中でいただいた問いを通して、昭和 100 年から考える持続可能性とは何か、また、各個人の専門分野の知見と今回の講話の内容といかに関連づけられるかについて、学生、教職員、講師の先生との議論を通して深めていた。当初は 20 分の座談会を予定したが、参加者の皆さんが議論に熱中することができ、時間を延長するほど充実した座談会を実施することができた。

(文責：2025 年人間環境学コロキウム委員会 委員長 浅越 天真)